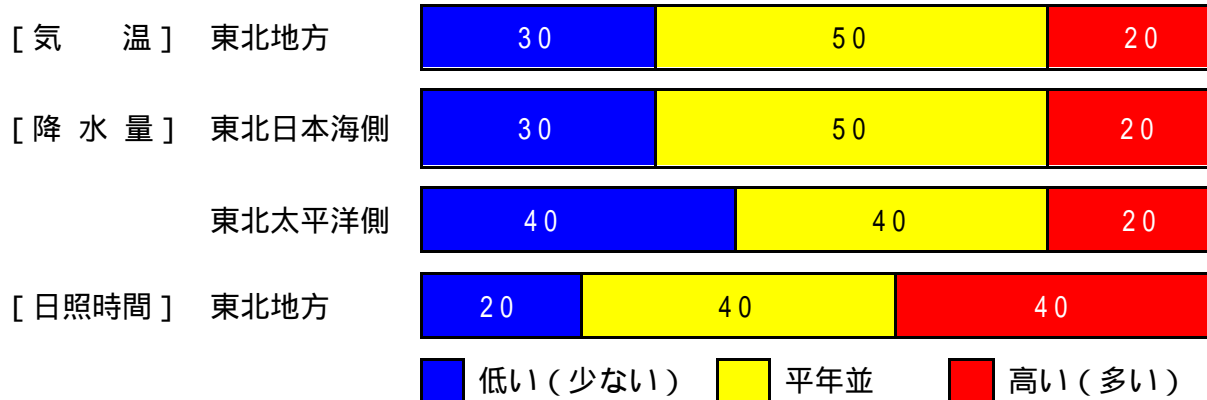


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：4 月 21 日～5 月 20 日）

平成 13 年 4 月 20 日 仙台管区気象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



[気 温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「低い」でその確率は 30％です。「高い」の可能性は 20％と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は 50％です。次に大きい可能性は「少ない」でその確率は 30％です。「多い」の可能性は 20％と小さい。

東北太平洋側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ 40％です。「少ない」の可能性は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方の天気は概ね周期的に変化するでしょう。寒気の入る日があるため、おそ霜のおりる恐れがあるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

向こう 28 日間の晴れ日数：東北地方で約 16 日

各予報期間の天候の特徴

1 週目……………

(4 月 21 日～4 月 27 日) 高気圧に覆われ概ね晴れる日が多い見込みですが、期間の終わりに気圧の谷の影響で天気がくずれるでしょう。

平均気温は平年並ですが、期間の始めに低い日があるでしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約 4 日

2 週目……………

(4 月 28 日～5 月 4 日)

天気は周期的に変化するでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約 4 日

3～4 週目……………

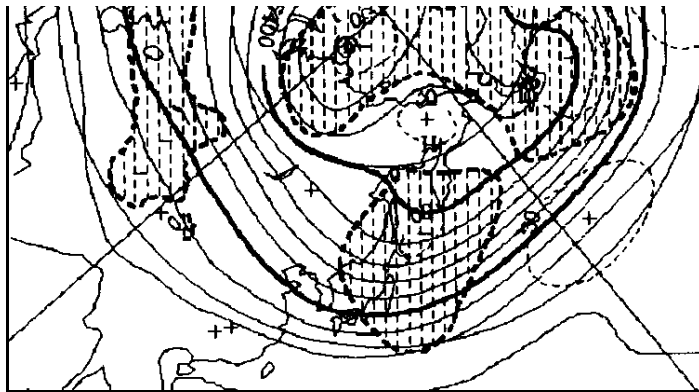
(5 月 5 日～5 月 18 日)

天気は周期的に変化しますが、低気圧や前線の影響を受ける時期がある見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数：東北地方で約 8 日

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

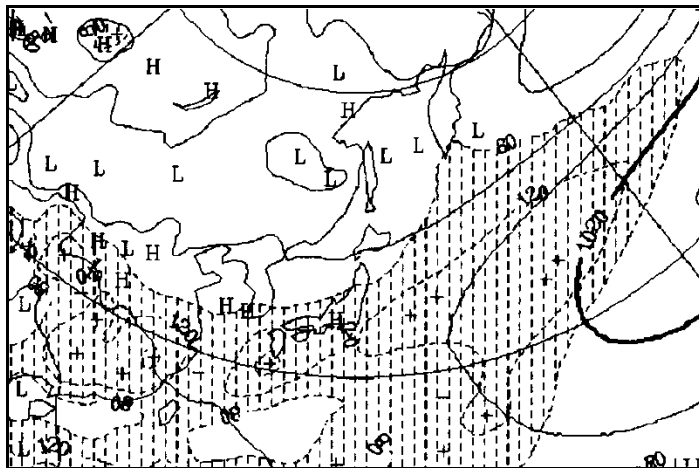


月平均の 500hPa 高度・偏差
（等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）

・500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、西日本を除いて負偏差。周期変化が基調となるが、寒気の入る時期もある見込み。

週別（図略）では、1 週目は日本付近広く負偏差域に覆われる。2 週目は、日本の東海上が負偏差。3～4 週目は、サハリン付近から東北地方まで負偏差域。

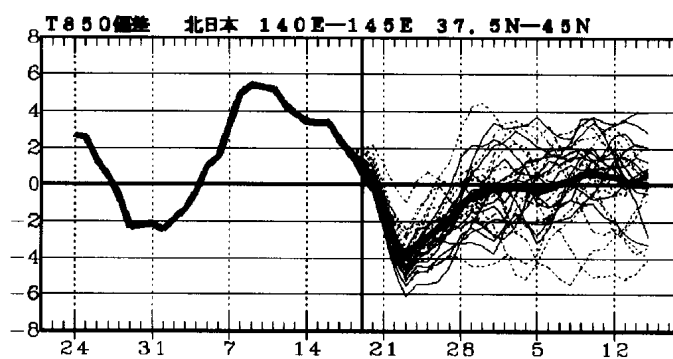


月平均の地上気圧と降水量
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

・地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本のはるか東海上にある太平洋高気圧が西に張り出す。日本付近は高圧部となっているが、降水域は、日本の南岸を中心に東北南部までを覆う。

週別（図略）では、1 週目は降水域がやや南に下がる。2 週目は、太平洋高気圧の西への張り出しが強まる。降水域は日本付近に帯状に広がるが弱い。3～4 週目は、本州南岸沿いに明瞭な降水域があり、東北南部まで降水域に覆われる。



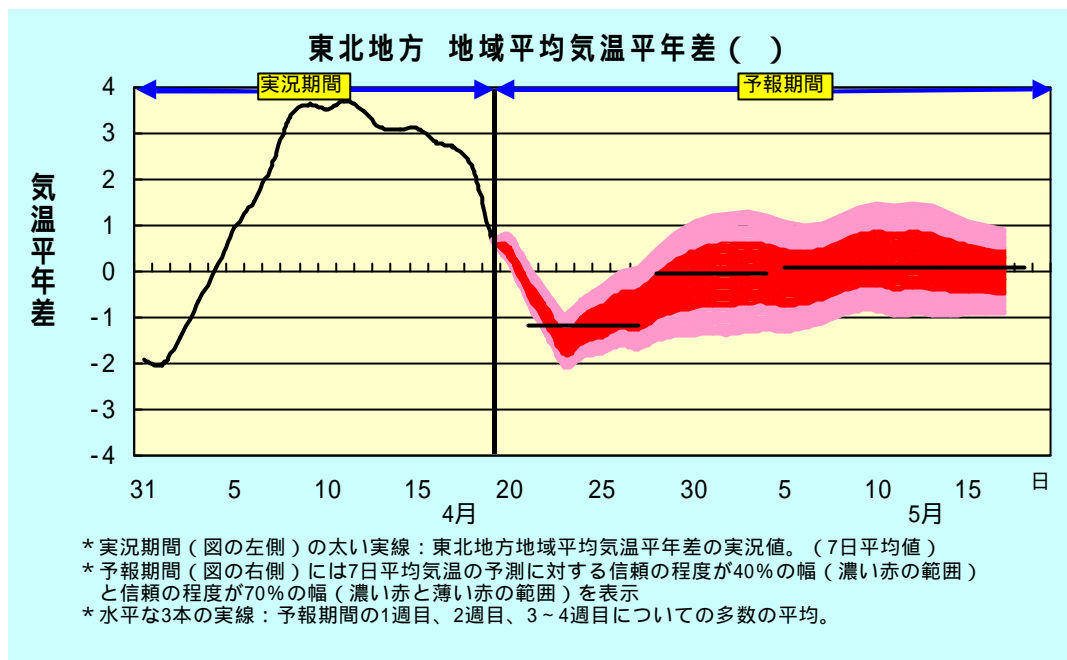
北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想
（縦軸：気温平年差（℃）、横軸：日付）
発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1 週目は平年を下回るが、2 週目以降は平年並で推移する。

3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

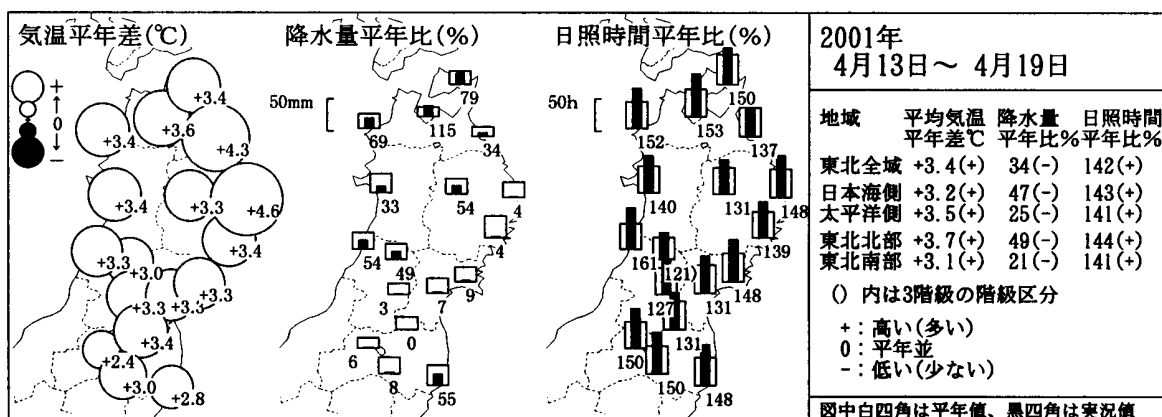
週別の気温は、1 週目「低い」、2 週目「平年並」、3～4 週目「平年並」を予測している。予報は、1 週目の低温を週間予報から引きいて考え、「平年並」に修正するほかは予測どおり。なお、予報の信頼度は大きい。



4．最近1週間（4月13日～4月19日）の天候の経過

前半は低気圧や前線が通過し、東北日本海側では一時的に雨となる場所もあったが、影響は小さかった。後半は移動性高気圧に覆われ、概ね晴れて気温の高い日が続いた。また、期間を通して東北南部を中心に降水量が少なく、空気も乾燥して、18日には青森県や岩手県で山林火災が発生した。

平均気温は、東北地方で平年差+3.4 と高かった。降水量は、東北地方で平年比 34% と少なかった。日照時間は、東北地方で平年比 142% と多かった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)